

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成27年 2月26日	評価結果市町村報告日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成27年 3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでのケア(生活支援)は、おとぎの国の理念に沿って、一人ひとりのペースに合わせて、時間を掛けて提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物の造りや昼間の自由な面会時間・利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を感じられる家族が多く、スタッフに限らず利用者の家族も、高齢(認知症の高齢者)になったら私もここにお願ひしたいとありがたい話をされている。又、行事での外出・近所への散歩・地元の子供会や運動会等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・地域交流伝承事業・GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとの繋がりが拡がり、この数年維持・交流できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者福祉施設の一部にあり、名前の様にメルヘンチックな優雅な建物であるが、内部は機能的な造りになっている。入居者の状態変化の緊急時や住み替え、災害時など、法人との連携体制が構築されており、入居者や家族にとって安心である。例年恒例の納涼祭やバラ祭りなどのイベントは地域にも浸透しており、地域交流の機会として定着している。ホームの特徴は季節毎のイベントや外出の機会が多く、ホームから法人のバラ園や周辺の散歩や庭の手入れなど、日常的に行われ、入居者の日々の生活にメリハリがある。家族にも写真や職員からの報告があり、訪問時にも職員のチームワークによる丁寧な対応で、穏やかで安心した生活が送られていた。研修体制や資格取得の体制も構築されており、職員の意見も管理者や法人へつながる仕組みがあり、検討、改善へつなげている。今後は、現在の方針を継続しつつ、検討事項を解決すべく取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフはグループホームの理念と地域密着型サービス(職員憲章等)の意義を理解しており、利用者一人ひとりの状況とペースに合わせ、理念とプランに沿ったサービスを提供している。	グループホームの独自の理念と職員憲章を目につく箇所に掲げ、職員は念頭におき、理念に沿ったケアに努めている。運営推進会議の資料にも掲載し、関係者に啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や運動会等での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力して頂けるようになってきている。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流も、この数年格段の拡がりを見せ維持できている。	近隣の小学校の運動会や子供会行事への参加等、積極的に行っている。日常、周辺の散歩に出かけており、会話や挨拶をしている。法人主催の納涼祭やバラ祭りも地域のイベントとして周知され多くの地域住民の参加があり、交流が継続して持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元3地区)にも開放し、回覧も数年前より行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地元の運動会や祭りへの参加は、数年前の、この会議での話し合いから生まれており、事業計画や外部評価内容等も報告し意見を求めている。	2ヶ月に1回開催されており、メンバーは入居者代表、家族代表、老人会会長、民生委員、行政職員、ホーム職員で構成されている。入居者のホーム生活、行事、健康状態の報告など行っている。その際写真をパワポを使って紹介し、ホーム生活や認知症を理解してもらう上で好評である。年度初めには運営推進会議の意義をメンバーに説明している。感染症や認知症について等、ミニ講座をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、市主催の行事等に参加しており、運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があっている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ行政職員の参加がありホーム状況の理解をもらっており、疑問や分からないことは連絡し、情報交換等をしている。行政主催のイベント等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分に理解している。又、研修や学習会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修受講やホーム内の学習会等で学んでおり、身体拘束の弊害を理解している。言葉や薬等による拘束についても理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んでいます。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	家族には定期的に担当者によるホーム生活や健康状態などについての便りを送っている。入居者の誕生日には入居者の好きなメニューのリクエストをもらい、家族もお誘いし、楽しい時を過ごしてもらおう機会を持っており、意見等を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。	職員の意見等は業務中や毎月の会議で聞く態勢ができています。出された意見等は全職員で話し合い解決へ向けて検討している。ホームで解決できない場合は法人へ報告し意見の反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人での施設内研修会(事例研修発表会)を実施している。県や市主催の研修会やグループホームのブロック研修会等にも参加し、能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に交流し勉強会を行ってきている。又、問題点や取り組みの方法等お互いに学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきた。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや知人宅訪問等は家族の協力を得ながら支援している。又、今年は以前からの友人や老人会(志々岐と藤井地区の老人会は定期的な面会……)等の訪問があり、これらの方には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。	老人会の訪問が継続的に行われており、馴染みの関係ができています。お墓参りや自宅に帰ったり、希望があれば支援しています。家族の協力を得る場合もある。美容院・理容室も以前からの馴染みの所へお連れしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差がでるが、生活や行動を共にすることで、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に(困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い・家族としての思い等…)考え支援している。	日常の関わりの中で会話を積極的にすることによって、思いや要望を把握している。困難な方は反応やしぐさから推測したり、家族から情報を得る場合もある。把握した情報は記録し、職員間で共有し、検討し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネジャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員の意見や日々の記録等、家族や入居者の意見を普段からも聴きとり、生活歴、環境を加味し、検討した介護計画を作成している。毎月の会議で入居者のカンファレンスを行い定期的にモニタリング、介護計画の見直しをしている。変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤枠の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様なケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	以前からの医療を受診できるようにしている。かかりつけ医は協力医としている入居者がほとんどで、定期や緊急の場合には職員による通院介助である。受診後に家族に報告している。その他、他科受診は家族による通院介助としている。その際の情報の提供、共有は徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いしたい……。」と希望される家族もある。	入居時は重度化について、ホームで出来ることと出来ないことを入居者や家族に説明している。医療行為が常時になった場合はかかりつけ医、家族と相談を十分に行い、本人にとって最良な方法で対応するようにしている。過去4回看取りをホームで経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣り近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される消防署立ち会いでの避難訓練にも参加し、地元消防団との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	消防署指導のもとホーム独自の火災避難訓練を入居者参加で、昼間、次の年は夜間という風に実施している。隣接の施設と合同で実施しており、法人の訓練にも参加している。地元の消防団には法人を通じての協力依頼がしてある。	今後は運営推進会議への消防団メンバーの参加や、協力体制の依頼の取り組み等が期待されます。

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けている。	職員は入居者一人ひとりを尊敬し、敬意をもってケアにあたっている。言葉使いや対応もそれぞれに応じて行っている。個人情報に関しても十分に理解し徹底して保護している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時等にも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容室に行かれたり、訪問美容(理容)を利用されたりしている。又、特別な日や外出時の化粧や服装も相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めていくし、準備や片付けなどを一緒に行い、食事と一緒にしている。又、誕生日や特別な日には、本人好みの料理を聞き、メニューに取り入れている。	献立は入居者の好みや季節感を考慮して入居者と相談しながら立てている。下拵えや準備、片づけ、買い物も能力に応じて入居者と一緒に行っている。野菜の皮むきや味見なども率先して行う入居者のサポートしながら行っている。職員も同じ食事を同じテーブルを囲み、会話をしながら摂っており和やかで有意義な時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。スーパーソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。	入居者の排泄パターンを把握しており、時間や様子を察して昼間はトイレへの声かけや誘導、介助を行っている。夜間はその方に応じて時間でパットを変え、安否確認、体交等をそれぞれに合わせて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望によりいつでも気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り・安全確認に注意を払っている。	基本週2回入浴支援をしているものの、希望があれば毎日でもいつでも入浴できる。体調や気分を考慮して、気持ちよく入浴できるように支援している。拒否の方には時間を置いたり、タイミングをみたり工夫している。汚染時にはシャワー浴や清拭等に対応し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	毎日天気や体調を考慮して、近隣の散歩やホームの庭でお茶や外気浴等頻繁に行っている。季節で花見やドライブ、関連事業所へ車で出かけたり、外出やイベントは多く実施しており、入居者の生活にメリハリがある。家族や地域との交流も多く行われている。	

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等へのお礼の他、本人の要望あれば、電話をかけ家族等と話をされる。又、年賀状を毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けて、ニカ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りには、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	ガラス張りの中庭を中心に2つの部分に分かれており、それぞれの使い方で家族等数人で話せたり、一人になれたり、プライバシーも守れ様々な使い方が出きるような造りである。家庭的で季節感にも配慮した、入居者が過ごし易い空間作りがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた馴染みの家具(タンス、テーブル、椅子)の他、仏壇やテレビ等を持ち込まれている居室もある。面会時にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	家族の協力のもと、使い慣れた家具や生活用品、家電、家族の写真等が持ち込まれている。仏壇や椅子、テーブルも持ち込まれ、お茶の接待をし、家族とゆっくり過ごすための居室となっている。ドアにはスタンドグラスがはめ込まれ、名前や花が置いてあり、のれんもそれぞれかけてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される人々もいる。		

(別紙4(2))

事業所 グループホーム おとぎの国

目標達成計画

作成日：平成 27年 3月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	毎年、消防署指導のもと、ホーム独自で火災避難訓練を入居者参加で、昼間、次の年は夜間想定という風に実施している。 又、隣接の施設と合同で避難訓練を行い、法人の訓練にも参加している。 地元の消防団には法人を通じての協力依頼が行ってあるが、地元消防団等と合同での災害対策実施・確認までには至っていない。	①火災避難訓練実施の他、さまざまな災害を想定したシミュレーションの確認を継続的に行っていく。 ②近隣や地元消防団等との協力体制の依頼確認や取り組みを行っていく。	①火災時の通報と避難方法、水害・土砂災害時の通報や避難方法等は、各々マニュアルを作成し訓練を行っているが、今後もさまざまな災害を想定し、検討を継続していく。 ②近隣や地元消防団等と協同での災害対策(災害避難訓練等)の実施・検討を行う。 ③消防団メンバーの運営推進会議への参加。	8ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。